



2007/08 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区 B

市原ロータリークラブ会報

第 2146 回例会 2007 年 11 月 28 日(水) SAA / 川島会員 会報担当 / 山本会員

例会場 五井グランドホテル 市原市五井 5584 - 1 事務局 TEL 0438-38-3535



点 鐘 市原 RC 会長 角谷修

ソング それでこそロータリー 四つのテスト唱和

お客様 ガバナー事務所 牧野泰子様 牧野幸代様

会長挨拶 市原 RC 会長 角谷修



皆さん こんにちは！

街路の銀杏の葉がきれいに色づきすっかり秋景色になり、冬の近いことを感じさせられます。

アメリカのサブプライムローンの損失で世界中の金融機関で減益予想が相次ぎ、足元の企業業績の好調も果たしていつまで続くかと懸念されるこの頃ですが、いかがお過ごしでしょうか？

国内の個人消費はまだ上向きではありませんが設備投資は 08 年度も +8.7% と好調が予測されています。強弱取り混ぜたような経済指標に戸惑いがありますが一進一退の先が明るいことを願うのは甘いでしょうか？ 明年 1 月のクラブフォーラムでは、我がクラブの先輩の経験談を是非お話いただき、私達の企業経営の一助にさせていただきたいと願っています。

本日の卓話は山田会員でございます。ご存知の通り優れた建築家として数々の名作を残しておられますが、地区の文化活動にも非常にご熱心で、佐藤のり子氏の「愛のコンサート」のプロデュースは私達の記憶に鮮やかに残っています。今日はその辺のご苦労話をたっぷりとお聞かせ願いたいと思います。どうぞお楽しみに！

幹事報告 幹事 斎藤栄志

- ・来週の例会は新入会員 5 名の入会式です。
- ・P.J RC(マレーシア)より交換留学生 5 名が 12 月 5 日に到着します。(10 日間)皆様のご協力お願い致します。

卓話 山田守会員



「音楽のある人生」

私は愛知県常滑に代々続く急須造りの家「山田常山」の次男として生まれる。次男であったことが、私の人生を決定する。父は私を守と名づける。これは、長男に何かあった場合に常山家を守るためにつけたのだといつも言われる。幸いにも兄には何事もなかったが、もし何かあって私が継いでいたら、私が兄のように「人間国宝」になれたかどうか、大きな疑問である……。

兄が持っていた S P レコードを電蓄で聴く。家を継ぐ必要はなかったものの、芸術的環境の中で育ち、将来はやはり芸術的なことをしたいと思う。第一志望はオーケストラの指揮者になること。芸大の指揮科に入りたいと思い入学願書を取り寄せたが、実技試験で楽器の演奏があり、本格的な楽器を弾いたことがなく断念。フェノロサが「凍れる音楽」とっていた建築の設計を目指すことにする。

音楽は聴いていたが、むしろ野球気遣いで、中学、高等時代とも野球部。中学時代はセカンドを、高校時代はショートを守る。全国大会では、愛知県予選の準決勝で、9 回の裏に一塁手のエラーで 1 点取られて 1 - 0 で敗れ、甲子園の夢を絶たれる。大学の部活動は、志望の大学に合格すれば、それは東京六大学野球で最下位の大学だから、もしかしたら選手になれるかもしれないから野球部に入ろう、と希望を抱いて受験をしたが、田舎高校で秀才でもないのに十分な勉強もしないのだから当然のこととして一度ならず不合格。

こんな何年も続けるわけにも行かず、その大学だけが大学ではないと諭され、最後に、第2志望としてもう一つ受けることにする。その大学は、6大学野球で最強の大学だから、とても補欠にもなれいだろうから野球はやめて、音楽にしよう、大学創設以来125年の伝統を持つ音楽同攻会（好ではない）にしよう（合格前から）決めて、第1理工学部の建築学科を受験。合格。大学の入学手続きの日、建築学科の入学手続きをするより先に「音楽同攻会」の入部手続きをする。以降、音楽中心の学生生活が始まる。建築学科の学生としては決して優秀な学生ではなかったが、それはまさに魂を揺さぶる感動に満ち溢れた毎日で、その後の人生の岐路が決まり、現在に繋がっている。

50年遡って大学の音楽同攻会時代の二つの思い出

音楽同攻会のマネージャーを務める。部活動は主に部室でのレコード観賞だが、大学にレコードがあるわけではなく、レコード会社から白レーベルのレコードを借りてくる。白レーベルのレコードとは、「レコード芸術」で評論家が新譜レコードを紹介するために評論家が前もって聴くために作成した、一般発売する前の特殊なレコードである。評論家が聴いた後で日本の殆どのレコード会社から特別に借りられることが出来、私はマネージャーとして自由に好きなだけ借りることが出来る。毎週レコード会社を廻って借りてきた膨大なレコードを貪欲なまでに、まさに寝食を忘れて聴きまくる。毎日が気が狂うほどの感動で満たされ、私の音楽観が築かれたように思う。

建築家・黒川紀章が学生時代にモスクワを訪れた時にガイドしてくれた女性を彼が好きになり、彼の初恋の人として、若尾文子という奥様がいるにもかかわらず（4、50年前のことで時効か？）数年前にNHK TVで彼がガイドをしてくれた彼女を訪ねる旅としてのドキュメンタリー「我が心の旅；建築と初恋に燃えた日々」というのが放送されたが、この度、黒川紀章が亡くなり、その追悼記念として再びNHK教育TVで再放映される。彼に50年前の恋を公にすることが許されるのであれば、彼と私は月とすっぽんだが、私もそれにあやかって勇気を持って50年前の事を今日こうして振り返ってみることにする。

1)ある日、借りてきたレコードを整理するため、有楽町の名曲喫茶（でんえん？）に入る。レコードをテーブルの上に並べて整理をされていて、タバ

コを吸おうとして口にくわえマッチを探していた時、サッとライターが目の前に出てきて火がつけられる。するとそこに笑顔のプロンドの若き女性が…。恐らく、喫茶店で妙なことを始めた私のことが気になっていたのだろうか、火をつけてもらったからただ「サンキュウ」とだけ言って何も言わないで別れてしまうのは失礼であるので、彼女が何のために火をつけたのかということとを考慮すると、やはりこの出会いを大切にしなければと決意する。（煙草は百害あって…というが、これはまさに煙草のおかげで人生に青春の花が咲く。）名曲喫茶に来る人は（クラシック）音楽の好きな人だから、当然音楽の話から入りいろいろ話が弾み、同じ趣味ということからすっかり打ちとけ、以降、彼女が国に帰るまで2、3年間の交際が始まる。

彼女はマドレーヌと名乗り、スイスから来て日本に暫くいるという。私より二つ年下で、その時は椅子に腰掛けていて分からなかったが、西欧人だから当然私より背は高く私とは釣合わないだろうからこの時だけのことと思っただが、一緒に外に出て私より少し低いことが分かり親密度が更に増し、このことはカップルとしても似合い、とても嬉しいことである。

ある時、彼女の住む目白の家に呼ばれる。古い立派な日本の家。靴を脱いで畳敷きの玄関の間に上がろうとしたところ、そのまま良い、といわれ大変驚く。二人でLPを聴いたりしているうちに終電車もなくなりかけ、お暇をしようとするも未だ早いからと引き止められ、結局、朝帰り。しかし、純粋な学生だったので何事もなく、今にして思えば、残念というか、もしかして彼女は何か期待していたとしたら彼女に悪いことをしたのかなとも思う……。結局、清い思い出となる。黒川紀章と若尾文子の恋が「バロックの恋」であるならば、私の場合は「シャーベットの恋」のようなもので、まことにさわやかでさっぱりしたもの。（それでは、いつも彼女と一緒に聴いたラヴェルの「逝ける王女のためのパヴァーヌ」を聴く。）

2、3年前に有楽町に行った時、未だその建物はあったが、先週池袋の東京芸術劇場でのコンサートに行っただけで回りを道をして見に行ったところ、最近取り壊されたようで、そこだけが歯抜けの状態。ヨーロッパではそのような思い出多い古い建物は残しておいてくれるものだが、寂しいことです。画家の東山魁夷は古い建物のない町は記憶喪失の町のような」といっ

ている。

2) 八大學音楽愛好会、略して八音というが東大、一橋、早稲田、慶応、立教、明治学院、法政、中央の八つの大学からなり、都内で毎月レコードコンサートを行なう。ステレオという言葉さえなく立体音楽といい「八音・立体コンサート」という。コンサートだけではなく有名講師を招いて講演会をしようということになり、講師として近衛秀麿氏に頼むことになり、各大学の代表者数名で頼みに行く。近衛秀麿氏は、近衛文麿元総理の実弟で、日本の音楽界の重鎮であり、今のNHK交響楽団を作った人でもある。1957年10月4日の午後、近衛邸にお邪魔して、30分くらいで帰る予定だったが、話が弾んで大きくなり、「今度、みんなでヨーロッパの音楽事情の視察に行かないか」という、びっくりするようなことを近衛氏が言い出す。それは月に行くようなもので、誰一人まともな話として受け取れない。因みに、ハワイへ1週間行った人の話では、費用が50万円掛かったとのこと。当時の大学卒の初任給が1万円弱の時代、50万円は今の約1000万円になる。ヨーロッパなんてその2,3倍……結局この話は悪い冗談として受け止めて、近衛家をお暇する。すっかり暗くなってしまった空を見上げると、一本のオレンジ色の光の筋が西から東に向かって伸びていくのが見える。流れ星にしては遅いし、飛行機よりは早いし…それはソ連が打ち上げた人類初の人工衛星スプートニク第1号である。ヨーロッパ視察旅行といい、人工衛星第1号といい、少し眉唾物の大きな話だが、私自身が体験した事実である。

ロータリーでの二つのコンサート

1) 川添千尋「ロータリー・ミニ・コンサート」

彼女の父が私と大学の同窓で、彼女は有秋西小学校卒業で、私が音楽愛好者だということからたまたま一緒にいた彼の愛娘の千尋さんを紹介される。彼女はチャイコフスキー国際コンクール入賞、モスクワ・ポリショイ歌劇場専属歌手の他、ウィーン国立歌劇場でも歌うという世界をまたにかけて活躍しているソプラノ歌手である一方、千葉市の都市景観委員会の委員でもあり、私も市原市の委員であり、美しい街並みについての私の講演会にも足を運んでくれる。

都市景観の委員ではあっても彼女はソプラノ歌手、私は建築家ということで、彼女が都市景観についてもっと話を聞きたいからと、個人的に数回会って親しくなった

ところで、千尋さんの母校でコンサートを開いてくれるよう依頼、快く承諾され、1995年6月5日、有秋西小学校で「川添千尋・ロータリー・ミニ・コンサート」をロータリーの移動例会として開催、小学生に大きな感動を与える。実はそのコンサートを藤谷さんが聞いてくれたとの事で、後にロータリーへの入会にきっかけになったとの話を伝え聞く。

2) 佐藤則子「ロータリー『愛』のコンサート」

佐藤則子；ブッチーニ国際コンクール優勝の実力通りのドラマティックソプラノ歌手。圧倒的な声量と美声、その上素晴らしい話し上手。歌の上手な歌手はあまたいるが、話も出来る歌手としては日本で彼女の右に出る者はいない。彼女と私とのきっかけを作ってくれたのは常泉会員であり、彼女が行っていた「愛のコンサート」を私が「ロータリー『愛』のコンサート」として受け継ぐことになる。

1998年2001年、私が2790地区の社会奉仕委員会を担当していた時、その社会奉仕活動として「静かで、美しい街づくり(ないことの美しさ)」と「ロータリー『愛』のコンサート」を行なう。そしてこのコンサートを県内50の中学校で開催し、マスコミにも大きく取り扱われる。白鳥氏も10回以上参加されている。特に菊間中学校でのコンサートはツッパリ君に大きな感動を与え、会場の体育館から教室へ帰ってから、みんなの前で佐藤さんのことを「アレア、大物だぜ！」といわせたことは有名な語り草になっている。

船橋の某ロータリークラブは、当初から船橋市内の中学校全部で開催する計画を立て、現在もこのコンサートは継続されている。また、コンサートの後で感想文を書いてもらい、生徒は勿論、多くの保護者、先生方、そして参画したロータリアンまで、5000通以上の感想文を送っていただく。その中から抜粋したものが「感想文集」です。心から感動するとこんなに素晴らしい文章が書けるものなのか、下手な小説や文章よりはるかに強く心を打たれる。

その中から、一部を紹介します。

生徒1；朝家を出たときの自分と、帰ったときの自分は違っていた。

生徒2；佐藤さんのお話と歌を聴いて、ケンカしていた友達と仲直りできました。

生徒3；100回失敗しても、101回目に成功すればそ

それは成功といえるという言葉聞いて、今までは失敗することを恐れていたが、とても勇気付けられた。

保護者1；私が中学生のときにこのコンサートを聴きかけた。そうしたら、私自身の人生が変わっていたと思う。

保護者2；ロータリークラブは駅前の掃除をしたり、福祉施設に車椅子やお金を寄付する団体と聞いていたが、このようなことをしてくれてロータリークラブを見直しました。

保護者3；こんな素晴らしいことを、ロータリーでなくて誰がするんですか！

ロータリアン；今までロータリー活動に疑問を感じ、意義を感じられなければ今年限りでやめようと考えていましたが、そんな時このような企画を知り、「心と文化」を地域社会に根付かせようとするこのような企画を経て、またロータリーを続けていくことにしました。このような企画をしてくださった方に感謝します。

音楽への夢を貫いた人；フローレンス・フォスター・ジェンキンス（ソプラノ）

アメリカの石油王の奥様。私の音楽への情熱に勝るとも劣らぬ情熱と更に太刀打ちできない資金力の持ち主。しかし史上まれに見る音痴。入場券に札束をつけて配り、天下のカーネギーホールでのリサイタルを行なったという。入場者はその悪声と並外れたテンポ、音程、リズムに笑い転げるために集まり、逆にそれで有名になったという。勇気ある彼女はことあるうちに、オペラの中で最も高度な技術を要するというコロラチュラソプラノの名曲・モーツァルト作曲・歌劇「魔笛」第2幕のアリア「夜の女王のアリア」に挑戦。先に聴いてしまいますと、これが本当のメロディーかと勘違いされてはいけませんので、先に本物のアリアを聴く。歌っていますのは、韓国出身のソプラノ；スミ・ジョーです。

次に、ジェンキンスさんを聴きますが、ピアノは原曲通りに演奏しているのが面白い。もちろん、彼女も原曲通りに歌っているつもりなのでしょうが.....。

美しい音楽を聴いているとき私は最高の幸せであり、あと100年も200年聴き続けたいと思う。

反面、こんな音楽を聴きながら今死んでよいとも思う。

最後に、これからの話は、妻の前ではいえないことだが、たとえ最愛の妻であったとしても、今の妻でなくても他の女性でもよかったかもしれない。（向こうもそう考えているかもしれないが、これは人間関係の宿命だから、仕方のないことである...）。しかし、私から音楽を取り去った場合、それに替わるものはこの世に存在しない。私から妻を取り去ることは出来ても、私から音楽を取り去ることは不可能なことなのである。

というような訳であり、わが人生を語るとき、音楽抜き、つまり、音楽と関わりのない私の人生は存在しない。まさに「音楽のある人生」なのである。

ニコニコ・ソーリーボックス

山田守会員：拙いお話をお聞きいただき感謝いたします。

上條優雄会員：PJ 交換学生に日本古来の家を見学させる事になり、元ロータリアンの切替尊敏さんをお願いしました所、快く受けて頂きました。退会してもロータリー精神は健在なのが嬉しくて...。見学したい方はご一緒にどうぞ12月10日(月)14:30です。

出席報告

前々回確定 77.7% 本日出席者 31 名
本日欠席者 14 名 本日出席率 68.9%
点鐘 市原 RC 会長 角谷 修